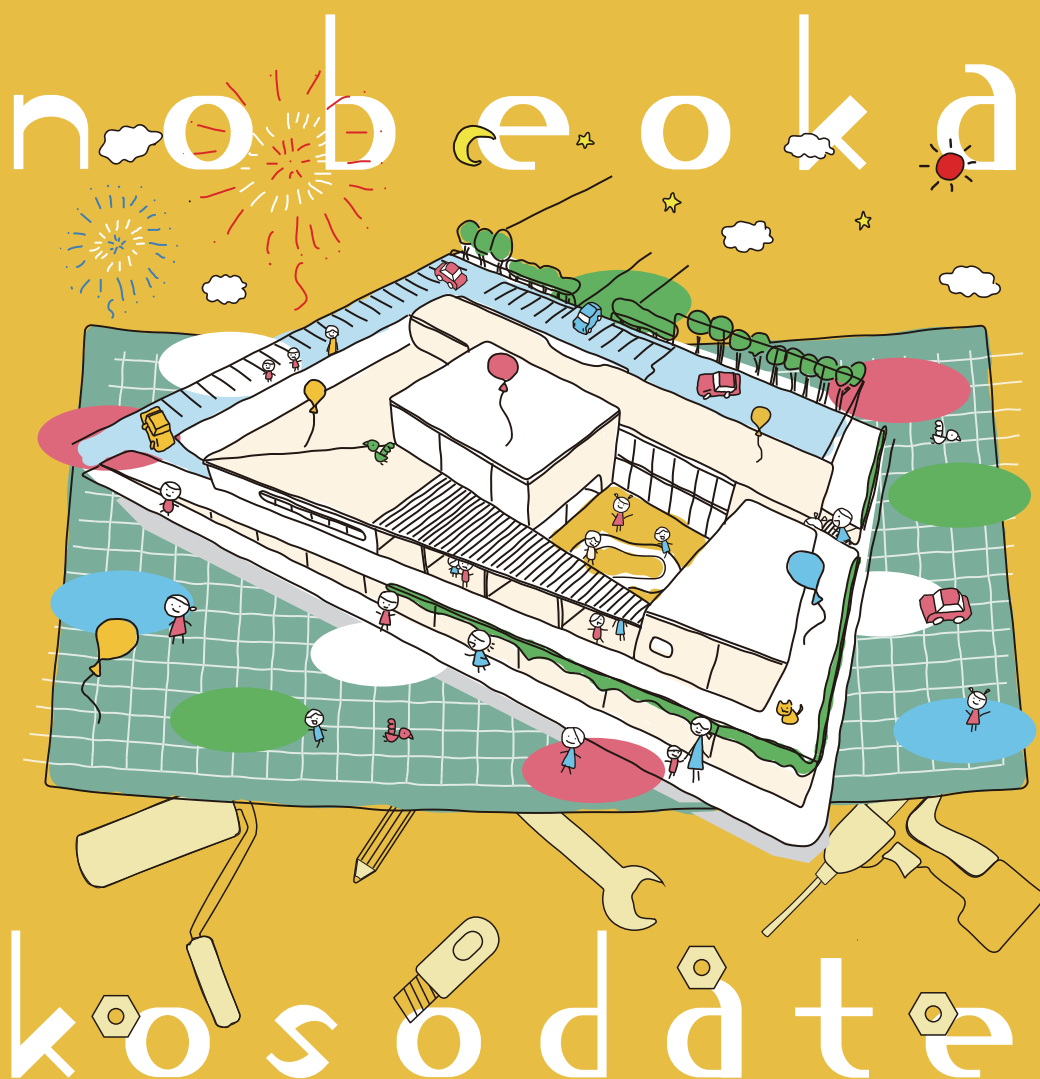


概要版

みんなが つどい つながり はぐき
こどもの づくり



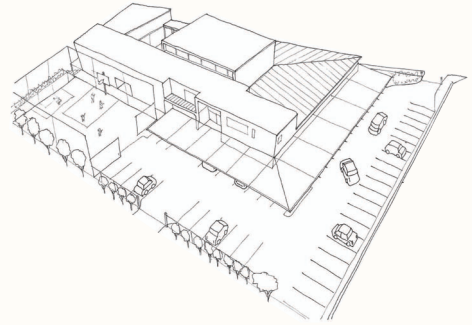
南部地域子育て支援拠点施設整備基本計画

令和 7 年 3 月 延岡市

はじめに

延岡市においては、かねてより、天候に左右されず安心して遊ぶことができる屋内外の遊び場所や、子育て世帯がゆったりと集い、仲間同士の交流を通じた学びや安らげる場所、楽しくワクワク感が味わえる場所が欲しいという要望が多く寄せられ、また、すべての世代が集う中での次世代の育成の重要性も指摘されてきました。

そのため、令和5年度に、「(仮称) 南部地域子育て支援拠点施設整備・基本構想」を策定し、基本理念や基本方針、施設概要などの検討を行い、令和6年度においては、基本構想の実現可能性を検証し、より具現化を図るため、先進地事例やアンケート調査をはじめ、関係者や高校生とのワークショップなどを重ねながら、施設立地の検討から施設計画や配置計画などの「南部地域子育て支援拠点施設整備・基本計画」を策定するものです。



1. 基本計画に求められる課題

(1) 敷地に関して

- ・市営住宅D団地跡を建設候補地としていますが、隣接して計画される市営団地の建替計画との整合性をとり、敷地形状や面積などを決定します。
- ・市営住宅D団地跡は第一種低層住宅専用地域であり、高さ、面積等で制限を受けるため、理想的な規模の施設建設にあたっては住民説明会や建築審査会などの検討が必要です。

(2) 施設規模について

- ・構想段階で設定された導入機能に基づき、施設面積を約1000㎡と設定していますが、実現可能性を踏まえながら、事例調査や、想定される利用者数などから適切な規模を算出します。
- ・施設面積と同時に、駐車台数（駐車場面積）、屋外広場などの面積も検討します。
- ・導入機能やその面積についても、より詳細に算定します。

(3) 運営・管理について

- ・構想段階では指定管理制度の導入が明記されていますが、どのような機能や部分を指定管理とするか、あるいは個人情報の扱いなど、より詳細な検討が必要です。さらに、運営・管理の方法により、施設に配置される人員規模や施設面積などの検討が必要となります。

(4) 脱炭素の具体化

- ・本市が指定された「脱炭素先行地域」を具体的に行うために、施設の構造（木造等）、ZEB※を前提とした施設の設備（太陽光利用等）、ランニングコストの削減などを基本計画レベルとして検討が必要です。

※ZEB

先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制やパッシブ技術の採用による自然エネルギーの積極的な活用、高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、再生可能エネルギーを導入することにより、エネルギー自立度を極力高め、年間の一次エネルギー消費量の収支をゼロとすることを目指した建築物

2. 施設立地の検討

最終候補地の再検討

基本構想策定段階では、市営住宅集約化事業の余剰跡地を施設の候補地として、敷地面積、用途地域、法規制、災害リスク、周辺環境、幹線道路からのアクセスの項目で比較検討した結果、一ヶ岡D団地を敷地候補としています。

さらに、基本計画において敷地面積が小さいという懸念があり、C団地と比較検討を行った結果、

D団地を施設の敷地候補として検討します。



3. 基本与件の整理

導入機能の検討

基本構想の考え方を踏まえ、施設機能は大きく3つの機能から構成されます。

① 子育て支援機能

キッズルームをはじめとする遊びやふれあいを通した機能や一時預かりや病後児保育、ワークルーム、飲食スペースなどの子育てを支援するための機能を整備します。

② 地域交流機能

地域交流機能は、乳幼児、小中高生、子育て世代、高齢者の異なる世代の交流を促進し、各活動やイベントをサポートする機能を有します。単一の利用者ではなく、多世代が多様な形で利用可能な諸室を整備します。

③ こどもの第三の居場所

主に中高生が自由に利用できる、学習室や図書スペースなど学校や自宅とは異なる空間造りを行います。



諸室ゾーニング検討

① 年代と空間構成

こどもたちは、その年代によって体格や興味、活動などが異なります。安全、快適性の確保などの観点から、その年代ごとに適した活動の場を用意しなければなりません。

この施設では、年代ごとに対応した屋内、屋外、静的な活動の場を設けます。

年代と空間構成

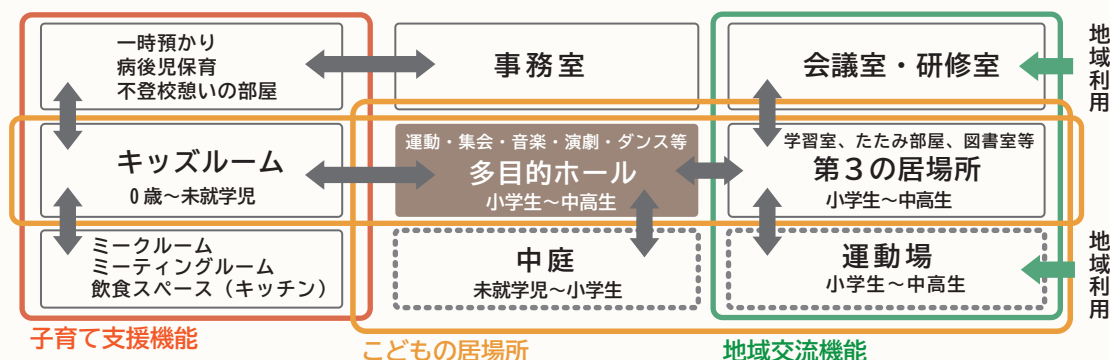
年代	0～2歳	3～5歳	小学生	中学生・高校生
特徴	他年代と区別した領域 保護者同伴の活動 動と静が一体化した空間 自然素材の空間 全身運動の空間 親との交流空間に隣接	ごっこ遊びと冒険心 屋外と室内が一体化した空間 視線が届く範囲に親の存在 立体的な仕掛け空間	体全体を使った立体的な遊び空間 自らの創意工夫のスペース 室内、屋外がつながった空間 親も参加できる遊具 親が自由に過ごせる隣接空間	友人との交流空間 規則に縛られない行動 創意工夫が活かされる空間 個人的スペースの確保 保護者が介入しないスペース
屋内活動	キッズルーム	キッズルーム	多目的ホール	多目的ホール※
屋外活動	テラス（屋根付き）	中庭（人工芝）+ 運動場		運動場
静的活動	キッズルーム + ワークスペース		学習室 + 図書 + たたみの部屋	

※主に小学生が利用していない夕方以降の利用

② ゾーニング

施設内の、子育て支援機能、こどもの居場所、地域交流の3つのゾーンは、各空間が独自性を保ちながらも連携し、互いに補完しながら機能します。

また、こどもの様々な活動を行う多目的ホールが3つの機能を繋ぎ、象徴的で中心的な役割を果たします。



4. 配置計画

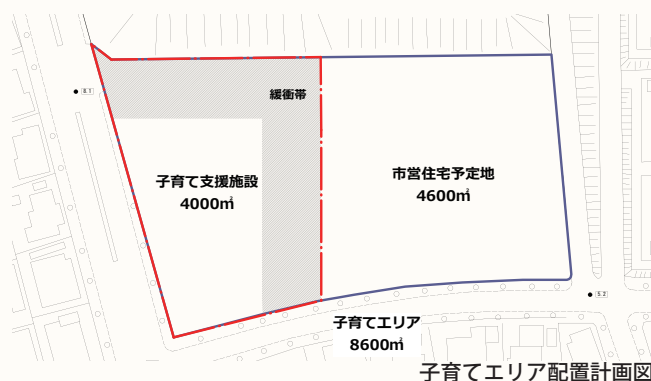
敷地可能性検討

基本構想策定においては、施設の敷地規模として3,000㎡を想定していましたが、基本計画策定におけるワークショップやヒアリング等を通じて、以下の課題への検討が必要となりました。

- ① 駐車場の最大限の確保と、イベントや催事の際の臨時駐車場の確保
- ② 高学年のこども達の屋外運動スペースの確保
- ③ 建設予定の北側市営住宅との緩衝帯の確保

これらを踏まえるとともに、子育て世帯にとって居住と子育て支援施設が併設した「子育てエリア」を創出して、子育てに優しいまちづくりにもつながるため、市営住宅D団地の南街区（8,600㎡）における市営住宅については、子育て世帯優先住宅として整備するとともに、子育て施設との間に駐車場や屋外運動場による緩衝帯を配置するため、**子育て施設の敷地を約4,000㎡**とします。

また、駐車場に関しては、常時50台程度を確保し、催事・イベント開催時は屋外運動場も臨時駐車場（約20台）としての利用も想定し、さらに不足する場合は、市営住宅D団地北街区に予定される駐車場や、近隣のコミュニティセンター等の駐車場の利用も想定します。



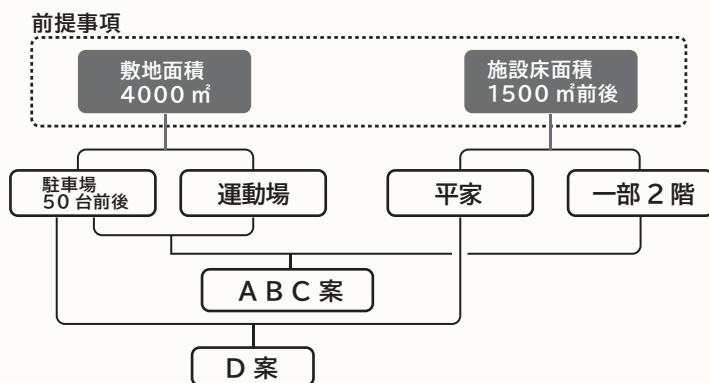
5. 施設計画（モデルプランABCD案）

① 敷地形状からの評価

ヒアリング及びワークショップなどの意見を参照すれば、中高生の屋外での運動場の要望が高く、また、アンケートの結果でも十分な広さであり必要性を感じる回答が75%ほどありました。

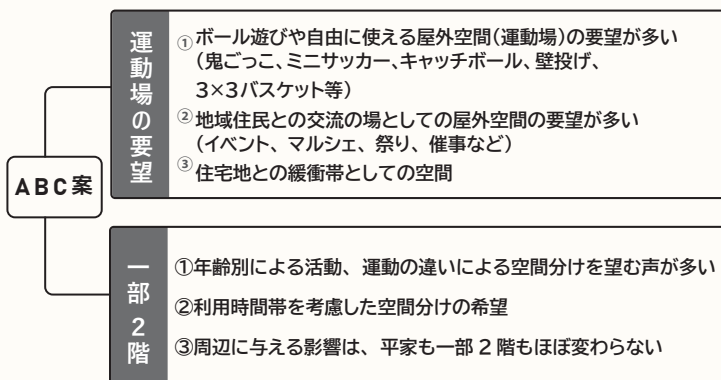


■ヒアリングの様子



② コンセプトからの評価

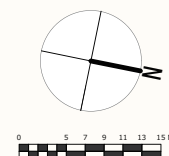
基本構想で示された、「みんなが つどい つながり はぐくむ こどもの居場所（キチ）づくり」というコンセプトを反映すれば、施設の中央に多目的ホールを配置し、2階に利用年齢が高い、小学校～高校生までの第三の居場所としてのスペースを配置します。また、ヒアリング、ワークショップでも、利用年代別の空間を明確に離すほうが良いとの意見が多く、またアンケートの結果でもA案の支持が最も高く全体の45.1%あったことから、この基本計画では、A案を最終的な検討案とします。



プランの特徴

施設中央に多目的ホールを配置し、2階に学習室、図書室、会議・研修室など学童利用の機能を配置した案

- ・キッズルーム・多目的ホールを使って様々な年代のこどもが1階で遊べます。
- ・保護者は、ワークルーム／ミーティングルームや飲食スペースで中庭（こどもの遊び場）を見ながら交流ができます。
- ・使用する時間帯、年代が違う学童のスペースが2階です。



ギャラリー

雑談や勉強をできる空間で、多目的ホールの様子を視認できる。

図書

図書室の設置

会議室・研修室

地域団体や外部単体の利用も想定した会議室
空いている時間は学習室として利用

たたみ

囲碁・将棋や読書などができる他、自由に使用できる空間

学習室

- ・小中高校生の学習の場づくり
- ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり

2階平面図 Scale=1:800

一部屋根付きの駐車場

不登校生憩いの部屋

不登校生などが気軽に過ごせる場づくり

キッズルーム

未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場

屋根つきの屋外デッキ

中庭

大型遊具や砂場などの設置が可能な中庭

ワークルーム・ミーティングルーム

- ・楽器遊び、工作遊び、大きな鏡のある部屋
- ・不登校生などが気軽に過ごせる場づくり
- ・学校の難しい課題・宿題を教えてくれる場づくり
- ・未就学児の親子や小学生が集い、遊び、飲食の場

駐車場(51台)

駐車台数51台確保

事務室

子育て情報やイベント情報の発信と提供

相談室 (3部屋)

- ・母子保健、療育、発達相談、ネグレクト等への相談、支援
- ・専門員の配置による相談しやすい環境づくりや保護者カウンセリングの実施等
- ・静養室も兼ねる

多目的ホール

- ・パパサロンなど父親の育児参加促進
- ・保護者が語らい、学べる場づくり
- ・異年齢交流とのコミュニティの充実
- ・文化・芸術と触れ合う場づくりなど

運動場

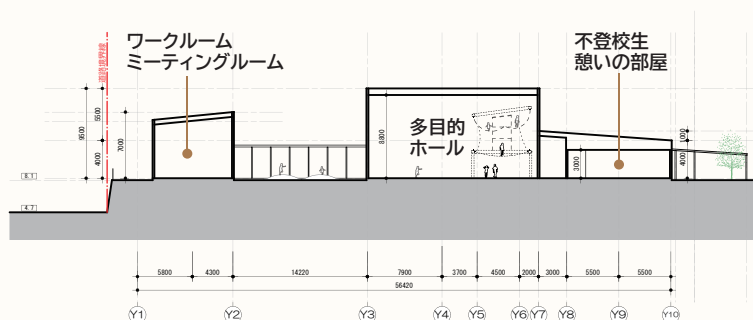
ボール遊びが可能で、臨時駐車場としての機能を合わせもつ運動場

1階平面図 Scale=1:800

6. 諸計画

構造計画

本計画の構造設計では、国交省が進める公共建築における木造推進、及び**市産材等の利用推進**などを踏まえ、また温暖化対策の一環としての木材利用の観点からも、木造が合理的と判断しますが、基本設計段階において、木造やRC(鉄筋コンクリート)などの併用に関しても検討を加え、最終的な構造を検討します。

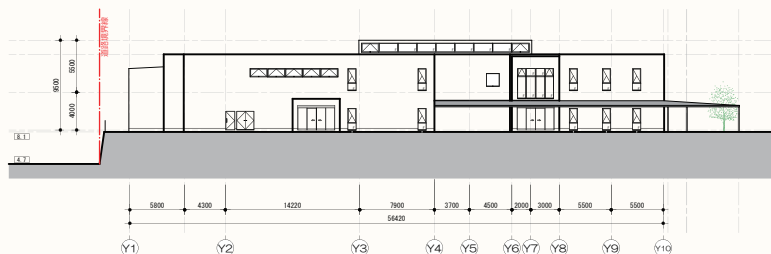


断面図 Scale=1:800

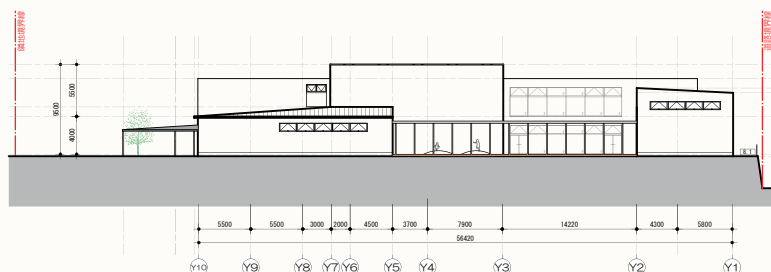
設備計画

本施設が位置する一ヶ岡団地が**脱炭素先行地域**に選定されていることから、再生可能エネルギーや省エネルギー設備の率先的な導入を図るため、**ZEBの考え方**を取り入れた設備設計や間接光を取り入れた**消費電力の節減**や**効率良い空調システムの導入**を図ります。徹底した省エネを目指し、太陽光発電、地中熱利用などの創エネも考慮します。

また、一ヶ岡小学校のこどもたちの脱炭素発表会での様々な提案についても、「教育」効果として、本施設の設備設計では考慮するものとします。



北側立面図 Scale=1:800



南側立面図 Scale=1:800

外構計画

- **運動場** : 車の乗入れを前提とし、同時に運動時の快適性、クッション性などを考慮し、カラーアスファルト、アンツーカー舗装などを候補とし、基本設計で確定します。また、運動場でのボール遊びを想定し、防球フェンスやコンクリート壁を設置します。
- **中庭** : 人工芝を敷設し、猛暑対策としてミスト(細かい霧)噴霧器などを設置し、対策を講じます。
- **駐車場** : 安全性確保の視点から6m幅を確保し、一部には屋根を設け、雨天時の利便性に配慮します。
- **擁壁** : 新たに設置される擁壁について、圧迫感を和らげる設計を行います。
- **緩衝緑地** : 市営住宅との境は、中低木を植栽し、フェンスを設置し、安全性を確保します。

全ての外構エリアにおいてユニバーサルデザインを反映し、斜路、点字ブロック、適切な案内サイン、十分な照度を確保した屋外照明などを設置します。

整備概算計画（以下の数字はあくまで試算にすぎず今後変動する。）

- 建築：施設本体直接工事、共通費、ZEB性能向上、デッキエリア、駐車場屋根
- ランドスケープ（外構）：駐車場、中庭、運動場
- 土木：擁壁
- 遊具+家具：大型遊具、その他遊具、家具

総工事費 9億8200万円

- ・この概算は計画段階におけるもので、基本設計終了時に再度検討し、精度を高めます。
- ・今後の建築物価の変動は予測がつかないため上昇の際は、その上げ幅を反映した概算とします。
- ・ZEBとして整備する場合、概ね1億円程度かかると見込まれる一方、例えば木造化・木質化の場合は森林環境譲与税が活用できるなど市の財政負担軽減策もさらに検討します。

整備財源計画

現在、国においては、国民・国・地方が一丸となった地方創生の機運醸成をはじめ、地方創生の好事例の横展開を通じて、希望と幸せを実感する社会の実現をめざしています。

本施設の整備にあたっては、国の方針を踏まえ、本市の自主性と創意工夫に基づき、地域の多様な主体の参画による地方創生に資する取組が必要であり、これらの政策に付随する各種整備制度や交付金事業、起債などの有利な制度を最大限に活用していきます。今後、基本設計の策定を進める中で、現時点において考えられる国県交付金や起債などを基本に、適切な時期に関係課や国県との協議を進めながら、市債等の市財源の最小化をめざします。

ランニングコスト（以下の数字はあくまで試算にすぎず今後変動する。）

基本計画段階では、施設全体の運営管理は、指定管理者制度の導入を検討していますが、施設の詳細な設計が行っておらず、近年の光熱費など物価上昇による経費の算定は極めて困難であります。また、サービス内容に応じて、それぞれ人件費等の経費がかかることが考えられ、国及び県の補助金制度を活用するとともに、市が運営主体となるのではなく、民間事業所を誘致する形にして、市自体はコスト負担を行わないという方法も考えられます。

サービスに係る運営経費の総計 4,700万円／年間

- ・同規模・類似施設の「えんキッズ」の運営管理費用を目安に算出しています。
- ・本施設において、催事、地域交流イベント、マルシェなどの企画とその実施などが極めて重要で、これらの創造的運営・管理に関する経費なども別途考慮する必要があります。

人員配置計画

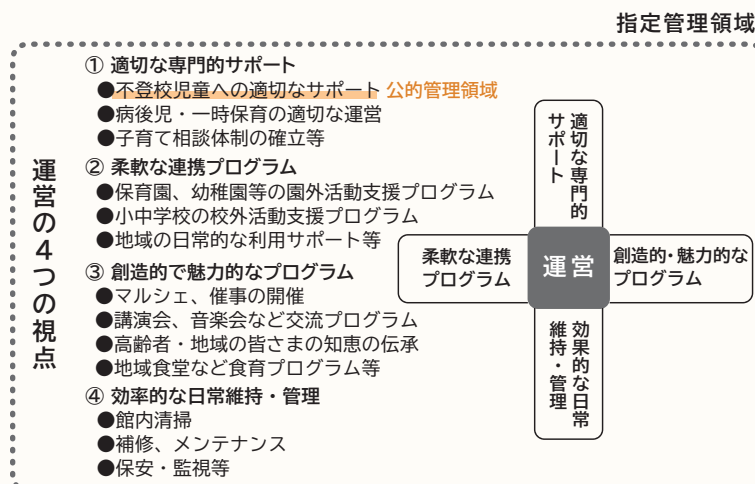
施設の運営・管理に関する人員の配置については、類似施設の配置実態や既存施設「えんキッズ」の状況を参照しながら検討してきましたが、さらに精度を高めるため、来年度予定する「基本設計」の策定において、ZEBプランナーや子育て施設運営の経験者が協働して検討できる体制構築を図りながら、さらに詳細な検討分析を行っていきます。

7. 運営管理計画

運営には4つの視点が考えられます。

- ・適切な専門的サポート
- ・柔軟な連携プログラム
- ・創造的で魅力的なプログラム
- ・効率的な日常維持管理

それぞれの領域を組織化し、必要とされる人材を配置しなければなりません。また、災害時や非常事態への対応、外部との通報、連携など2つの領域にまたがる事案の扱いなど、詳細な検討を行い、運営体制を構築する必要があります。



8. スケジュール

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
基本設計	準備	基本設計		
地質調査	準備	地質調査		
実施設計		準備	実施設計	
建設工事			準備	建設工事
指定管理手続き				
管理運営			検討	3月運営開始▽ 準備

ワクワクデザインワークショップ

第1段

利用が想定される児童及び保護者を対象として、日常生活の様子、あるいは求められる機能、関心のある遊び、カフェや飲食機能、デジタルの要素などについて地形模型や図面などを使いながら会話を行いました。

第2段

施設の素案4案を模型を使って提示しながら、施設の利用、周辺への影響、施設の運営など、より具体的な内容まで意見交換を行いながら市民ニーズを調査しました。

高校生

施設の素案4案、敷地模型などを使いながら日常の高校生生活や、休日の時間の使い方など高校生ニーズを調査しました。

